

「新聞を身近に感じさせるための取り組み」

多可町立加美中学校 校長 越川 昌信
教諭 石川 翔大

1. はじめに

多可町立加美中学校は平成 28 年度現在、1 年生 53 人、2 年生 70 人、3 年生 77 人の全校生徒 200 人である。素直な生徒が多く、校内での取り組みや実技教科の実習に積極的に取り組む傾向がある。本校は本年度より N I E 教育実践校に指定され、実践 1 年目である。N I E 教育の実践前に生徒向けに行った「N I E に関するアンケート」では、次のような状況が見られた。以下は部分的にデータを抜粋したものである。約 8 割の家庭で新聞が取られており、新聞を読むことは可能である。しかし、世の中の情報の入手方法はインターネットやテレビが多く、約 5 割の生徒が新聞をほとんど読んでいない。新聞を毎日読む生徒に至っては、1

割にも満たない状況である。このデータにより、生徒にとって新聞はあまりなじみのないものということが分かった。そのため、N I E 教育を実践するに当たりまず取り組まなければならないことは、生徒に新聞をできるだけ身近に感じさせることだった。学校の中で、生徒が新聞に触れ

N I E に関するアンケート 集計結果 ※1

① 日頃、国内や外国のさまざまな情報をどのような方法で入手していますか		
4 新聞、インターネット、テレビの全てで		18.7%
3 新聞とテレビで		15.6%
2 インターネットとテレビで		42.7%
1 テレビで		22.4%
② あなたの家は、新聞を取っていますか		
4 2 紙以上取っている		9.3%
3 取っている		70.8%
2 取っていない		16.7%
1 わからない		3.2%
③ 最近、家や学校で、どのくらい新聞を読んでいますか		
4 毎日読む		8.9%
3 ときどき読む		25.0%
2 ほとんど読まない		37.0%
1 全く読まない		25.5%
未回答		3.6%

※1 平成 28 年 6 月 2 日に全校生徒(200 人)を対象に行った

る機会を増やしていこうと考え、校内掲示や授業での新聞活用を進めた。さらに授業の中でも新聞の記事などを取り上げるなど、生徒に新聞を身近に感じさせられるように工夫し取り組んでいる。学校教育目標「人権尊重のこころを持ち ふるさと多可町を愛し こころ

豊かで夢に挑戦する 自立した生徒の育成」の達成に向けて弾みとなればと考えている。

2. 実践内容

(1) 記者派遣事業の活用

NIE教育の取り組み始めとして、兵庫県NIE推進協議会事務局長・山崎整氏に本校で講演をしていただいた。「神戸新聞の記者さんに聞く、壁新聞の作り方講座」というテーマで、生徒が作った壁新聞をスクリーンに映し山崎氏に改善点などをアドバイスしていただいた。山崎氏は、かつて神戸新聞西脇支局に勤務経験があり、本校の体育館が完成した当時には何度も取材に来てくださったという。その当時の話も交えながら、新聞記者の仕事はどのようなものなのか、なぜ新聞記者になろうと思ったのかなどを語ってもらい、生徒にとって「キャリア教育」の観点からも、ためになる話を聞くことができた。



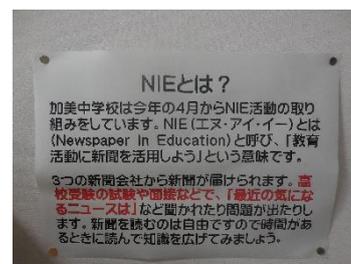
写真：講演会の様子

(2) 新聞の置き場と整理方法

本校では新聞を「国際交流スペース」で保管をしている。ここでは生徒が自由に出入りでき、設置されている新作書籍や部活動の歴代トロフィーなどを見ることができる。新聞もそこに設置しており、新聞社ごとに区別して保管している。各新聞社の特徴を見ることができたり、休み時間などに気軽に新聞を手に取り社会の出来事を知ることができる。過去の新聞も同じ所に保管しているので、少し前の出来事についても新聞から振り返ることができる。



写真：新聞閲覧コーナー



※NIEを説明する掲示

(3) 各教科での取り組み

①国語科

国語科では、夏季・冬季休業中の課題として「新聞感想文」を出している。新聞記事を読んで考えたことを原稿用紙3枚以内にまとめるという課題である。一般新聞や電子新聞どちらでも可能で、家庭で新聞を取っていない生徒は、学校で保管している新聞を使用することもできる。生徒は多種多様な新聞記事を選択しており、スポーツに関連したことや社会で大々的に話題になっていること、地元に関することで取り上げられた記事についてなどが選ばれていた。生徒は作文で書くための記事を、新聞を読んで探さなければならないし、関心のある事柄について新聞から新たな情報を得ようとしていたので、生徒が新聞を読み、新聞に触れるきっかけになったのではないだろうか。

②社会科

社会科では1、2年生を対象に「地理新聞・歴史新聞」の作成をさせている。特に制限を設けることなく、地理新聞であれば世界各国に関することやある地域の文化について調べ、歴史新聞では、好きな時代や歴史上の人物について調べる。それを定められた新聞形式で

まとめるものだ。新聞を読むだけではなく、文章や写真を駆使しながら伝えたいことを見やすくまとめるのが、この取り組みの課題である。

(4) 特別活動での取り組み

生徒会執行部が月に1回のペースで生徒会新聞を発行している。それには学校行事や生徒会の活動に関するトピックスがあり、学校に設置してある目安箱(生徒会に対する意見の投稿箱)に対する返信も掲載している。何か学校行事を終えると生徒の声を取材し、それも掲載している。この取り組みにも、中学生新聞等の記事が参考になっている。

(5) 校内掲示などでの取り組み

① 教室内での新聞記事紹介



※生徒が作成した歴史新聞「太平洋戦争」



※教室後ろの黒板に掲示している新聞



※記事を切り取り掲示しているポスター

教室内の黒板や掲示板を利用して、新聞を掲示している。新聞の記事内容の主な事柄を書き出し読みやすく工夫をしているものや、記事に関する発問を書き出し記事の内容を読むことでその発問に対する答えを見いださせる。自分が知りたいと思ったことを見つけるために記事を読ませ、発問の答えを見つけるために記事を読ませるなど、目的を持って記事を読ませる工夫を凝らしている。

② 職員室前掲示板の新聞利用

職員室前の掲示板には、新聞記事と日本地図を並べて掲示している。新聞で取り上げた事柄が日本のどの場所で起こったことなのかを事柄の内容とともに記事と地図を留めて結び示している。そうすることで、地理的な位置を把握する力にも結びついている。また、日本各地の出来事に関心を持たせるきっかけにもなり得ると考える。



※職員室前掲示板での新聞掲示の様子

③子ども新聞の掲示

校舎内の生徒玄関から入ってすぐの所に掲示板を設置し、そこに朝日新聞の「朝日中高生新聞」を掲示している。この新聞には社会の出来事が分かりやすく解説されており、生徒が関心を持ちやすいものになっている。また、著名人をインタビューした内容を載せている記事もあり、ニュースのことはなかなか読み出しにくい生徒でも、この記事には関心を持ち読んでいる姿も見受けられる。



※玄関前の掲示板(朝日中高生新聞)

3. 実践後の感想と今後の課題

①実践後の感想

生徒にとって新聞はあまり身近に感じるものではなかったように思う。現代社会では、さまざまな情報をインターネットから得る者が多く、特に中学生くらいの年代にとってはインターネットがとても身近なものになっている。そういう状況の中で新聞をどれだけ生徒に読ませられるか、目に触れさせられるかが、NIE教育に取り組むにあたっての課題であった。学校内の掲示板や教室にも積極的に新聞記事を掲示したり、休業中の課題として新聞を活用した課題を出したりするなど、生徒が新聞に触れる機会を作るような取り組みができた。実践1年目として、生徒が新聞を身近に感じられるような取り組みを心掛けてきたので、そのことに関しては一定の成果が見られたと考える。

②今後の課題

生徒が新聞に触れるきっかけを増やすことはできたが、授業内などでの実践はこれからさらに探求しなければならない。学習の中で新聞をどのように活用できるのか、学校教育目標達成に向けて、さらに学力向上のために有効な活用の仕方を考えなければならない。現段階では、新聞記事の内容と授業内容で関連した事柄を授業序盤の導入の中で取り入れることはできている。しかし、授業展開の中で新聞を活用した活動は、いまだどの教科でも不十分である。新聞記事を活用し、ある事柄についての探求を深める学習や、新聞を作成し学習内容の定着を図るといった、アクティブ・ラーニングをより取り入れることが今後の課題であると考え。教師自身をもっと新聞の意義や活用方法に気づき、さまざまな活用につなげられるように今後さらに模索していきたい。